

モデル事業名	田舎暮らし体験ハウス；古民家「なかや」を拠点に、津金地区の空屋対策を中心とした活性化
活動団体名	特定非営利活動法人 ぶんかしげんかつようきょうかい 文化資源活用協会
ホームページ	http://www.tsugane.jp
所属／ 担当者名	担当者氏名 高橋 正明
連絡先	電話番号、0551-20-7100 Eメールアドレス bunka@tsugane.jp
活動地域	山梨県北杜市須玉町津金地区

● 活動地域の概要

- ・北杜市須玉町津金地区は山梨県の北部、標高800mの中山間地位置しており5つの集落に530人216戸（H19年）が暮らす、孤立的な地域である。この中に空屋が42戸放置されている。
- ・過去10年間で人口は約20%の減少で高齢者も約半数近くあり、限界集落真近かの状況となっている。地区へのアクセスは中央本線韮崎駅からバスで約1時間（乗り換え1回、本数は朝夕は1時間に1本程度）、車では中央高速自動車道・須玉ICから約15分。
- ・津金地区は古くから米と養蚕によって生計が維持されてきた、養蚕の衰退のあと栽培されたリンゴは県内唯一の産地として伝説的な知名度を誇り需要は高いが、高齢化により作付面積・生産量がともに減少しており、農家にはほとんど後継者がいないことから、今後もリンゴ栽培をやめる農家が増えることが見込まれる。農業以外の就業の場はないため、中年以下の若者は甲府、韮崎等に勤め、津金には戻らない人が多く、空屋の増加に歯止めがかからず、その所有者も貸すことに抵抗があり活用も進んでいない。

写真1

地域のシンボル「3代校舎ふれあいの里」



写真2

空き屋



写真3

リンゴ畑



● 活動地域の課題

- ・本地区は山地に囲まれた集落景観の美しさで多くの来訪者が訪れ、地区の中心にある、唯一の集客施設である「三代校舎ふれあいの里」（昭和60年に廃校になったかつての津金学校：明治の藤村式学校は県指定文化財として保存され、大正の校舎は大規模体験施設として改築、昭和の校舎は建て替えられ、おいしい学校としてイタリアンレストラン、宿泊施設、産直施設として活用）とともに心休まるふるさとの原風景として、地元住民の愛着と誇りの場所であり、この風景の保全が最大の課題（山梨大学工学部大山研究室；地域計画・景観、の学生が卒論・修論で景観調査・空屋に関する意識調査を実施している）。また、集落景観を保全するための空屋の活用や農作物に大きな被害を与えるイノシシ・シカ等の獣害対策も大きな課題である。

● 活動の内容

- ・平成21年度

活動1) 古民家の田舎暮らし体験ハウスとしての試験運用による空屋利用者の誘致

- ・田舎暮らし生活体験を一般に周知して試験運用する；PRツールの作成、空屋体験ルール作成、空家所有者との交渉等
- ・北杜市空屋バンクサイト・国土交通省二地域居住サイト・山梨県東京八重洲アンテナショップとの連携
- ・田舎暮らし体験ハウスの運営、借用する空き屋の管理、空屋周辺農家への周知、見学者の受入れ・誘致等

活動2) 古民家「なかや」の津金散策等におけるガイド拠点としての活用

- ・古民家「なかや」における津金ガイド体制の整備、「なかや」運営ルール作り、津金ガイドの育成

- ・津金ガイドマップ（景観散策・鰻絵散歩）・ガイドブックの作成、「なかや」運営ルール作り

活動3) 津金地区の景観保全、活性化支援対策

- ・獣害対策（放棄耕作地・空屋の柿、桑の実、栗等の採取：商品化の検討）による景観保全
- ・竹林の伐採：竹材による流しソーメン大会、間伐：炭焼きによる「なかや」の囲炉裏の燃料の確保
- ・「なかや」を活用したイベントの開催、地元住民との交流会の開催

● 活動の成果

- ・平成21年度
- ・「なかや」の古民家再生は昨年10月28日にUTYテレビ山梨で1時間のドキュメンタリー番組として放映され、多くの反響があり、地元民のイベントへの活用が始まっている、しかし県外へのPR等は今後の課題であり、そのためのツールの作成等を本事業で準備中である。また北杜市の空屋対策との連繫を模索中である（活動1）。
- ・活動2の田舎暮らし体験ハウスの運営ツールは現在ガイドマップ（景観マップ・饅絵マップの2種）とガイドブックを制作中であり、今後もツールの拡充を図っていききたい。
- ・活動3の獣害対策として「獣害対策てっか隊」による柿採りとその商品化により柿ジャム・柿ジュースをリンゴ祭りに学生・NPOショップで販売、干し柿はおいしい学校等で販売して好評を得た。竹林の伐採・間伐は夏・秋学生が来訪する時期に実施、夏は流しソーメン台、秋は柿採り材・炭焼材などに活用した、炭は「なかや」の囲炉裏の炭として来秋まで使用する。

年4回訪れる学生は地元住民との交流会及び秋のりんご祭りへのボランティア参加、柿の採取・加工・販売（出店）等で重要な役割を果たした、交流会は今年から「なかや」が使用出来るようになり、TV放映もあって地元住民の参加が増えている。

● 今後の課題及び展望

・課題

- ・田舎暮らし体験ハウスは秋から活用が可能になったが、その周知が十分でなく現在は地元の会合やNPOのイベントへの活用が中心であり、更なる周知が必要である、この方策が課題となる。また多くの空屋を抱えながらその所有者は他者に貸すことに抵抗があり空屋の活用は進んでいない（NPOでは外に1軒の空屋を借りている）
- ・津金を訪れる来訪者は「三代校舎ふれあいの里」しか知られていない為、地区内にあるその他の景観や歴史・文化資源を散策するためのガイド；ツールが無いので現在作成中であり、今後とも更に充実させたい。
- ・今回の活動で実施した「獣害対策てっか隊」による放置された柿の採取と加工販売は荒廃し衰退する地域に歯止めをかけ景観を保全する活動として一定の効果はあるが活動の規模は小さく限定的である、この拡大が課題となる。津金の活性化の方向として景観保全を主要なテーマとしており、上記の活動だけでは十分ではないことから今後とも新たな活動の創出とその推進が課題である。

・展望

- ・空屋の活用には行政の関与が重要な鍵である。所有者の説得はNPOだけでは難しいことから、市と連携した取組が求められることから、その方策を模索する。
- ・田舎暮らし体験ハウスには多くの問い合わせがあり、潜在的なニーズが伺われることから、様々な田舎暮らし体験を、地元高齢者の過去の生活・文化・生産に関する伝承を記録・体験・語り等を含めて伝える仕組みを構築したい。
- ・伝統的な集落景観を保全することで地元住民の愛着や誇りの醸成に寄与するとともに、都市住民の故郷志向にも応える総合的な活性化活動を模索する、空屋の活用、獣害対策、遊休農地・森林の活用は相互に関連させて実施することが目標である。

田舎暮らし体験ハウス;

古民家「なかや」を拠点に、津金地区の空屋対策を中心とした活性化

特定非営利活動法人 文化資源活用協会

「今年度事業に関わる写真集」

